

## 日本化学会 第90回春季年会にて特別企画

### 「新薬創製のための化学的アプローチとその展望」を企画して

関西大学 中井美早紀・成蹊大学 松村有里子

第90回年会にて特別企画を企画するように決まったのがちょうど一年前でした。決まっただけではいいが、テーマはどうする？誰に講演してもらおう？私たちにとってはまさに未知の分野(松村にとっては全く初めての経験)でした。二人で共同企画することは決まりましたが、なんせこの2人がまず研究分野が違う…(中井は錯体、松村は高分子)。とりあえず、何とか共通である製薬関係で講師を呼ぼう(テーマを絞ろう)ということに決定しました。第91回日本化学会春季年会では数多くの製薬に関するテーマが立ち上がっていたことを考えると、非常にホットなテーマ設定ができていたと今では思います。また、(医学の立場から製薬をみるタイトルで)から大阪市立大学の長崎先生と連携することによって、より深く製薬について考える機会として開催できたと思います。企業側の企画者として富山化学工業の山下栄次さんには、若輩者の私たちでは至らない部分をずいぶんとカバーしていただきました。さらに講師の先生としても、化粧品業界で話題となっているアスタキサンチンについて、楽しくためになる講義をしていただきました。

最初は名古屋市立大学の樋口恒彦先生に医薬品分子の開発として、尿素を導入したマンガンサレン錯体のSOD活性と、アルツハイマー発症の原因の一つである $\beta$ -アミロイドの阻害剤となりうるフォルダマーの開発について講義していただきました。続いて、東京農工大学の長澤和夫先生には G-quadruplex に特異的に結合する有機分子の開発についてお話していただきました。また、東京大学の寺井琢也先生には製薬の分野でも特に盛んになっているバイオイメージングの代表として、蛍光センサーの講演をしていただきました。当日は講演中止があり、急遽休憩時間を設定しましたが、先生方の非常に熱い講演と活発な議論に、気がつけば休憩時間がほとんどないという結果でした。少しの休憩をはさんだあと、富山化学工業の山下先生に講演していただきました。最後に、私たちにとって、また女性科学者にとって憧れである東京大学の黒田玲子先生に無理をいって講演をお願いいたしました。黒田先生のメインテーマであるカイモルフォロジーの講演をしていただき、最後は「よいCDがなかったから、自分で作っちゃった」となんともパワフルなお話をお聞きしました。会場は少し小さめの部屋でしたが、予想以上の聴衆が集まり(会場全ての壁が聴客でうまったそうです)私達だけでなく皆様驚いておられました。

講演の後は、おいしいワインとおいしい料理とともに、アフターセッションでした。お値段は書けませんが、びっくりするほどのワインが消費されたことは言うまでもありません。また末尾となりましたが、当企画を主催するにあたり、SPACC運営委員の先生方には数多くのご尽力を賜り、至らない点をかなりフォローしていただきました。また山下先生には講演から懇親会まで助成いただきました。この場をかりて熱く御礼申し上げます。